



学習会「子どもを事故から守ろう！

パパ・ママトークカフェ」を開催しました！

今年度も千葉県消費者団体ネットワーク強化・活性化事業として、千葉市とともに消費者講座を開催しました。千葉市との連携事業は5回目となります。昨年につき、乳幼児、未就学児の家庭内などでの重大事故の未然防止について、おしゃべりやワークショップを交え、楽しく学びました。また、コープみらい、パルシステム千葉、生活クラブ生協の3生協が同じ枠組みの講座を開催するといった、新たな試みでの企画となりました。

1. 開催内容

(文責 事務局)

学習会「子どもを事故から守ろう！パパ・ママトークカフェ」

講 師	Safety Kids いずみ代表 太田 由紀枝さん
主 催	千葉県生活協同組合連合会 参加者 3会場 計20人
共 催	千葉市、なのはな生活協同組合、生活協同組合コープみらい、 生活協同組合パルシステム千葉 生活クラブ生活協同組合（千葉）
後 援	淑徳大学 「令和6年度千葉県消費者団体ネットワーク強化・活性化事業」

(1) 講座内容（概要）

- ・《好奇心》好奇心によって、けがをしやすい。半面、それは望ましい発達の証でもあります。また、昨日までできなかったことが今日できるようになっています。このようなことから予防は難しいのです。
- ・《予防とは》事故やケガを予防することとは、「原因となる要因を変える、取り除く」ことです。まずは「変えられるもの」を見つけて、変えてみましょう！



太田 由紀枝先生

例えば… 幼児の喉は、親指と人差し指で輪を作った大きさ程です。ミニトマトや巨峰、マスカットなど、丸いものは詰まる恐れがあるので、4つにカットしましょう。堅い豆や白玉団子などは6歳頃から食べさせるようにするなど、窒息予防のために家庭でできることがあります。また、歯ブラシは先端が曲がるものを使う、高所からの転落防止のためにベランダに出ないように補助錠を高い位置につける、といったこともあります。このように、家の中での危険を探し、すぐに対応しましょう。公共の場所については、自治体や管理事務所などに、伝えましょう。

◆ワークショップ「ホーム・セーフティ・チャレンジ」

(参加者同士で、家の絵の中から危険個所を探し、対処を考えました)

◆ワークショップ「公園の中の危険個所」

(参加者同士で、公園の絵の中から、危険個所を探しました。見つけた危険個所をどこに伝えるのか、どのような方法で伝えたらよいかを考えました)

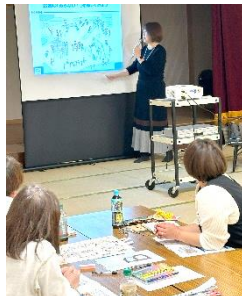
・《子どもと学ぶ》 以前、神奈川県と子ども用冊子「こどものあんぜんカレッジ」を作成しました。子どもと一緒に防止策について学び考える試みも大切です。

・《伝えること》子どもにとって危険な製品などは、改善してほしいことを事業者に伝えましょう。伝えることの大切さと難しさがあります。きちんと伝わるように、会社の人にお手紙を書く練習をしてみましょう。

※その他、季節ごとに多い事故例、ベランダの柵からの転落事故、ダウンジャケットを着せたままでチャイルドシートに乗せることの危険性など、動画を使って説明いただきました。

(2) 会場の様子 どの会場も、楽しい雰囲気の中で、学習が深まりました。

① 会場：蘇我コミュニティセンター(2024年11月30日(土)) 生協：コープみらい



② 会場：パルひろば☆ちば(2024年12月17日(火)) 生協：パルシステム千葉

閉会挨拶
千葉市消費生活センター
高澤賢一所長



③ 会場：生活クラブいなげビレッジ虹と風地域活動スペース虹 2F(2025年1月15日(水))

生協：生活クラブ生協



※各会場とも千葉市消費生活センターの方から、センターの紹介と閉会挨拶がありました。

(3) 参加者の感想(抜粋)

- ・いろいろなところに危険があるな、と思いました。親が知っているだけでなく、子どもにも伝えることが大事だな、と強く感じました。
- ・とても有意義なお話しでした。具体例もわかりやすく、良かったです。大人にとっても、知っておくとよい内容もありました。

※終了後一月後のアンケートから、家の中を点検された参加者もありました。 以上